

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H01947

研究課題名（和文）石造物研究による中世日本文化・技術形成過程の再検討 - 東アジア交流史の視点から -

研究課題名（英文）Re-examination of the formation process of medieval Japanese culture and technology through the study of stone structures ; from the perspective of the history of East Asian exchange.

研究代表者

市村 高男 (Ichimura, Takao)

高知大学・その他部局等(名誉教授)・名誉教授

研究者番号：80294817

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,000,000円

研究成果の概要（和文）：日本の石造物は、中国・韓国の影響を受け、8世紀の畿内で造立が始まる。9～10世紀には九州で石鍋・石仏等の製作が始まり、関東・東北でも石塔や摩崖仏等が製作される。12世紀後半に畿内や九州・東北で新たな石塔が現れ、13世紀後半には東大寺再建に参加した中国石工の末裔が、先進的な石造物の製作を始める。

日本の石工は中国の技術の一部を受容するが、日本の好みや環境に応じて独自の技術と文化を発展させた。13世紀後半から九州西岸を中心に海商が宋風石造物をもたらすが、その影響は限定的で、沖縄・奄美を除く列島各地に地域色のある石造物が展開する。日本は中国文化から取捨選択し、改変し独自に発展させたのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

石塔・石仏などの石造物を素材として、日本文化・技術について総合的な検討を試み、この分野の研究の多様な発展の可能性を示した。その中でも石材に着目した点は、自然系の研究者との連携を不可欠にし、帯磁率や放射線量の測定などの有効性を証明し、新たなジャンルを開拓した。また、個別石造物調査に3D計測を導入し、実測図作成の作業の効率化と客観性を高めた点は、石造物の基礎調査に大きなインパクトを与えた。

さらに中国・韓国の石造物調査を実施する中で、共同研究の機運を高めるとともに、日中韓の研究視点や方法の違いも明らかになり、今後の課題を確認できた。多様な研究者が集い、研究を飛躍させる機が熟している。

研究成果の概要（英文）：Japan Stone structures began to be built mainly in Kinai region in the 8th centuries under the influence of China and Korea. In the 9th century, stone pots and stone Buddhas began to be made in Kyushu, and stone pagodas and cliff Buddhas in the Kanto and Tohoku regions. By the late 12th century, new stone pagodas appeared in the Kinai region, Kyushu and Tohoku, and in the late 13th century, descendants of Chinese stone masons who invited in the reconstruction project of Todaiji temple began to produce advanced stone structures.

Japanese stone structures adopted some of the Chinese techniques, but developed its own techniques and environment. In the late 13th century, sea traders brought Sung style stone structures, mainly from the west coast of Kyushu, but its influence was limited, and stone structures with regional colors developed throughout the Japanese archipelago, except Ryukyu. Japan took Chinese culture, modified it and developed it in its own way.

研究分野：日本中世史

キーワード：石造物 石材 九州西岸地域 関東・東北 東アジア交流 技術と文化 学際的研究 3D計測画像

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 私たちは石造物研究に新たな視点と方法を導入して深化を図ってきた。その結果、石材流通の視点は石造物と中世史研究を繋ぎ、石材識別・産地同定の試みは、文理協働研究の有効性を証明した。また、宋風石造物の調査は、文献に現れない日中交流の存在を浮上させ、韓国の石造物調査は日韓石造物の比較研究の機運を高めた。

(2) 中世石造物は畿内系石造物の成立と地方伝播を軸に語られる傾向が強かったが、各地での調査の進展とともに、複雑な経緯が予想されるようになってきた。それに伴って、畿内の中世石造物に先行する九州などに残存する古式石造物の存在が注目され、畿内系石造物成立以前に伝播した中韓の石造文化との関連や、日本古代の石造物との関係が改めて問われるようになってきた。

### 2. 研究の目的

(1) 日本各地に存在する古式石造物の調査を進め、畿内系石造物との系譜的関連の有無を含めた中世石造物の成立の多様性、それに対応する形態的多様性、そしてそれが持つ意味を考察する。

(2) 中国・韓国や沖縄の石造物の調査を実施し、それぞれの製作技術や様式的特徴を把握して、日本の古代・中世の石造物との相違や共通性について検討する。沖縄については石造物を通じて日本文化との関係がどう変化するかを考える。

(3) 文理協働の体制を最大限に生かし、非破壊を基本とする石材識別と産地同定の新たな方法を開発し、その確度向上を図り、石材研究の方法的基準を形成する。

### 3. 研究の方法

(1) 九州や日本海沿岸に残る装飾性豊かな石塔(屋根瓦や垂木などの表現を持つ)や、日本各地に残る古式石造物(木製・金属製も含む)の調査を実施し、その分布や形態・製作技法を明らかにする。また、自然系の研究者と協働し、帯磁率・放射線量の測定や目視によって得られた結果を、石造物の地域的な形態差や加工技術の相違などと突き合わせながら、石材の種類や産地同定の確度向上を図り、今後の研究に寄与しうよう努めていく。

(2) 中国・韓国の石造物や採石場の調査を広く実施し、採石・加工技術などの特徴や日本との差異や共通性を解明する。中国では浙江・福建省の沿岸部を中心にして、薩摩塔の原型となった石塔の確認も進める。韓国では石塔・新羅・高麗時代の主要な石塔を可能な限り実見し、日本石塔との製作技術の共通性や相違を明らかにする。また、沖縄でも中国の「青石」(輝緑岩、粗製玄武岩)製の獅子像・石碑・石厨子などの調査を実施する。

(3) 国内に残る古い採石場跡の調査を実施し、採石技法や加工技術、採石場と加工場との関係などを調査する。その結果を踏まえ、中国の採石・加工技術との違い、使用する石材選択の違いなどを検討する。

### 4. 研究成果

(1) 日本古代の石造物(石塔・石仏・摩崖仏など)は中国大陸・朝鮮半島の影響を受けながら、8世紀に大和・河内・山城・近江などの畿内を中心に造立が始まった。それらは軟質の凝灰岩を使用し、木造建築や中国の塼塔を模して屋根や軸部に装飾を施したものが多く存在し、朝鮮半島の初期石造物の影響がうかがえる。9世紀になると、九州では滑石製の石鍋・経筒外容器・石仏などの製作が始まり、8世紀末～10世紀には関東・東北南部でも畿内の影響を受けて摩崖仏や石塔の製作が始まる。長野市の方田の層塔や群馬県桐生市の山上多重塔などには、朝鮮半島系石造物の影響がみられる。10世紀末から11世紀になると、比叡山に天台宗の高僧の墳墓に、柱状に加工された塔身に笠を乗せたのみの卒塔婆が現れ、中世の石幢や笠塔婆に繋がっていく。

(2) 朝鮮半島(韓国のみ調査)の石塔は、百濟様式と新羅様式・統一新羅様式(新羅様式に百濟様式を取り込む)からなり、板状・角柱状の多数の石材を使って組み立てる製作法は、日本の石塔の製作方法と大きく異なっている。百濟様式は木造建築を強く意識して造られており、木材の代わりに石材を使って建てた建造物という特徴を持つ。それは屋根の棟木・垂木や斗きょう(木偏に共)などによく表れている。8世紀中期～9世紀に隆盛した瓦塔も木造建築を模した仏塔であり、百濟様式に似通った形を持つ。新羅様式・統一新羅様式は、新羅と唐との政治的関係に対応するように、中国の影響が表れている。張出しの少ない屋根や屋根の段形などに象徴されるシルエットは、中国の塼塔によく似ており、両者の親近性がうかがえる。日本古代の石塔は、百濟との関係や木造建築の身近さから百濟様式の影響を多く受けており、大和・山城を中心に石塔(層

塔)の製作が始まる。奈良市の塔ノ森六角十三重塔や奈良県明日香村の龍福寺五重塔などがその代表である。新羅様式・統一新羅様式の影響を受けた層塔も確認されており、大阪府太子町の鹿谷寺十三重塔や岩屋寺三重塔などが代表であるが、この2つの事例は岩盤を柱状に掘り残し、その細部を加工して石塔に仕上げたもので、大和・山城の石塔の製作法と異なるが、その違いは信仰面ばかりでなく、製作主体の出自や性格の違いも示している可能性が高い。日本最古の石塔とされる滋賀県蒲生町の石塔寺三層石塔は、百済移民の子孫らが望郷の念を抱きながら、8世紀後半から9世紀頃に建てたものである可能性が高い。これは百済様式の系譜を引く石塔であり、形態面にもそれがよく表れている。しかし、改めてその細部を観察してみると、様々な相違点があることが判明し、このことから、百済移民らが日本に定着し、周囲の生活・文化の環境に同化した時代(孫かひ孫の時代)になって製作した可能性が高く、石塔自体にも日本化した要素が表れている。

(3) 9世紀末～10世紀、日本は相次ぐ自然大災害によって荒廃し、10世紀後半～11世紀に復興への動きが始まる中で、政治や社会・経済・文化が変化し、新たな石造物の製作環境が準備された。瓦塔はこの時代にも造られているが、注目されるのは、近年、木製の笠塔婆・板碑・幢など中世の石造物に繋がる遺物が相次いで確認されていることである。その代表的事例が、長野県千曲市の社宮司遺跡から出土した六角木幢(11～12世紀前半)と、石川県珠洲市の野々江本江寺遺跡出土の木製笠塔婆・板碑であり(12世紀)、やや時代が下るものの鎌倉国宝館の木製五輪塔(13世紀前期)や福島県いわき市の金光寺木製宝篋印塔(14世紀前期)が存在すること、仏像などの納入物に金属製・木製・水晶製・土製の塔などもあることなどから、石造塔に先立って多様な材質の塔が存在し、永続性を重視する中で石材が注目されて、中世の主要な仏塔として石造物が成立したことが分かった。その過程で、朝鮮半島の百済様式・統一新羅様式の影響は次第に後退し、日本化した半島風の要素が伝存するようになった。

12世紀半ば過ぎ、九州や畿内・中四国で新しい形式の層塔や五輪塔・宝塔などが造られ始め、東北の平泉では畿内の初発期の宝塔を改変して発展させた平泉型宝塔を創作し、工芸品を模した五輪塔も製作される。九州南部では、いち早く畿内とは異なる層塔を立て始め、随伴する個性的な武人像とともに13世紀以降に引き継がれる。畿内の層塔は古代と異なり、屋根と軸が一石で造られるものが中世の主流になっていくが、九州・中四国などでは屋根と軸とが別石で造られる伝統的な層塔が多く造られ続ける。また、関東北部では12世紀後半から13世紀初頭にかけて、良質な宝塔や笠塔婆・石幢が立てられ、各地で明確な地域性が現れ始める。

また、12世紀後半以降、中国宋から新しい石塔である無縫塔と宝篋印塔がもたらされる。前者は13世紀初頭の京都市泉涌寺開山塔がその最古の遺品であり、13世紀後半になると臨済宗の展開とともに広がっていく。後者は京都市の高山寺塔などを起点として、13世紀後半以降、日本の代表的な石塔として拡散していくが、その起点は金銅製の銭弘俶塔にあるとも、福建省の石塔にあるともされるが、両者の要素を需要しつつ、日本の嗜好に合わせて改変し、独自なものに発展させていった。韓国では高麗時代後期の11世紀までに宝篋印塔が伝播するが、事例は東国大学校博物館の1基のみであり、しかもその形態は中国のものとも日本のものとも異なっており、独自に発展させた様子がうかがえる。しかし、これ以降、韓国では宝篋印塔が広がった形跡は見られず、日本とは異なり、この塔種をほとんど受容しなかったことを示している。五輪塔とともに石造塔の中心となる日本と大きな違いである。ともあれ、12世紀後半～13世紀前半に、中世日本で展開する多様な石造物が出そろったことになったのである。

(4) 12世紀末の東大寺再建は、中国宋から多くの技術者を招聘して進められた国家的事業であり、その中には石工たちもいた。事業終了後も残留した伊姓の石工らは、大和奈良の西大寺と繋がり、13世紀半ばから活動を開始すると、13世紀後半～14世紀に西日本各地で相次いで優れた石造物を製作する。伊派と呼ばれるこの石工らは、新た採石・加工技術を駆使して硬質の花崗岩製の石造物を造り、その一派が鎌倉に移り、極楽寺と繋りつつ相模・武蔵・常陸などに先進的な石造物を製作し、関東の石造文化に新風を吹き込んだ。

伊派の石工らが駆使した中国の石材採取・加工技術は、硬質な花崗岩を切り出し、加工するのに適しており、その流れを汲む石工らに継承されていくが、日本の石工等はその一部を受容したのみで、伝統的な技法を維持・発展させていった。これは、来日した中国石工が小規模な集団であったこと、採石・加工技術のうちの一部を伝えたただけであったこと、日本の石工が石材として転石や岩塊を利用し、加工しやすい軟質の凝灰岩を好んで採取・加工していたこと、しかも身近なところに凝灰岩層があり、敢えて硬質の花崗岩を使用する必要がなかったことが理由である。

四国の香川県には中世に遡る凝灰岩の採石・加工場跡が20余か所も残っており、採石・加工の具体的なあり方が明らかになった。その調査結果によると、港に近い小高い山にある岩層から掘割技法で採石し、隣接した平場で加工し、浅い谷に設けた通路を利用して搬出し、船で海上輸送するというものである。また、複数の事例から、採石場のある山には古くからの寺院や摩崖仏があり、採石と寺院(山岳寺院)の建立が同時進行的に進められたことも分かってきた。これは、採石場の設置と寺院建立が分離し、採石の終了とともに摩崖仏を造った中国とは異なる特徴であった。

(5) 伊派の石工の活動と重なる 13 世紀後半～14 世紀、九州西岸地域を中心に薩摩塔・石獅子などの宋風石造物が相次いで搬入される。その石材は中国浙江省寧波市近郊にある方岩組地層に由来する梅園石であり、東大寺南大門の宋風獅子像はその最古にして最大の事例である。しかし、これは東大寺再建という国家的事業の中で造られたものであり、圧倒的多数は 13 世紀後半以降に搬入された小型の製品であった。日本外交の窓口である博多には、薩摩塔・石獅子・石仏の他にも多様な宋風石造物が残存しており、東シナ海の東西・南北の交点にあたる交易拠点の平戸や、薩南諸島への航海の発着点となる鹿児島県の万之瀬川下流域でも多数の事例が確認されている。

同じく九州西岸～沖縄県で 70 本余りの礎石が発見されている(10 - 14 世紀のもの)。これは中国の外洋船が東シナ海・南シナ海の航海で使ったものとみられ、そのうち 20 本は寧波近郊の方岩組地層由来の凝灰質砂岩(小溪石)であることを、文理協働の調査によって確認した。また、寧波産礎石が山口県から福岡県を経て鹿児島県・奄美群島から沖縄県に分布することも判明し、宋元代の海商の活動地域を具体的に知ることができるようになった。最近、堺市でも薩摩塔が発見され、茨城県波崎市に残る礎石も浙江石材の小溪石であることを確認しているため、14 世紀後半～15 世紀初め、中国の海商たちの航海は、九州西岸に留まらず、瀬戸内海最奥部から太平洋に面した銚子沖にまで拡大していた可能性が出てきた。

(6) 中国浙江省麗水市の靈鷲寺石塔群は、これまでも薩摩塔によく似た石塔(大きさはかなり異なる)として注目されており、私たちもそのように観察していたが、薩摩塔と同じ石塔を見いだすことはできなかった。薩摩塔それ自体が中国に存在しない可能性が高まったのである。そればかりか、日本に残る薩摩塔は、どれ 1 つとして同じ形態のものがなく、すべてが微妙に形を異にしており、同じ場所で同じ石工らが製作したものではない可能性も高まってきた。これは、薩摩塔の石材を切り出したままの状態か、粗い加工を施した半製品の状態で、寧波から船舶に積載し、日本にもたらし、日本で加工・完成させた可能性が高いことを示す。発注者は博多や各地の交易拠点などに在住する中国海商やその関係者であろうが、石材の加工はそれぞれの発注者の居住地近辺で個別に行われたとみられる。加工した石工も発注者に近い、中国の石造文化を良く知る者であろう。したがって需要者(発注者)はかなり限られていたと考えられ、しかもその個性的な造形や装飾が、九州の製造物に与えた影響も限定的であった。多様な石造文化の坩堝であった博多を除けば、九州西岸の石造物は、12 世紀以来の伝統を地域ごとに発展させたものであり、九州東岸地域の石造物は、豊前の国東塔からうかがえるように、畿内の石造文化の影響を受けて独自に発展を遂げている。

(7) 沖縄では、中国で「青石」と呼ばれる粗製玄武岩(輝緑岩)製の石造物の調査を実施した。事情により一部調査未了のところもあるが、新たに確認されたものを含めて全体を見通すことが可能になった。その内容を概観すると、獅子像・石厨子・石碑・礎石がほとんどであり、需要者は琉球王国の王や王族・重臣層にほぼ限られている。搬入された時期は、浦添市の浦添ようどれ石厨子を最古として、おおむね 15 世紀から 16 世紀のものであり、沖縄本島のみで確認されている。とりわけ朱里城の主要建造物の礎石や龍柱、玉陵の一部の部材や碑、屋根上の獅子像、石厨子などに多く使用されているように、王や王族らの威信材として機能したものであった。これらの「青石」は、中国福建省から浙江省にかけて産出し、福州ないし寧波から船舶で沖縄本島に輸送されたとみられるが、17 世紀初頭の薩摩藩の沖縄侵攻以降は搬入されなくなる(日本には当初から搬入された形跡がない)。また、石獅子像がシーサーの前身となる可能性を想定し、調査を進めたが、シーサーは 17 世紀末の野瀬町の富盛石彫大獅子(村の守りとして機能)が最古であり、「青石」の石獅子像より日本の狛犬に近く、薩摩藩の石造物が搬入され始めた頃、九州の狛犬の影響を受けながら製作され(初期の事例で現存するのは 2 例)、19 世紀以降に独自の発展を遂げたものがシーサーであったと考えられる。

(8) 石材の識別・産地同定は、帯磁率と放射線量の測定結果と、目視による石材の色調や鉱物組成の観察、石造物の地域的な形態差の観察を組み合わせながら実施した。帯磁率と放射線量の測定による石材識別の有効性はこれまでも確認しており、調査地域を拡大しデータの蓄積が進めば識別の精度が確実に向上する。この点は帯磁率の測定の進展によって証明されているが、新たに始めた放射線量の測定は、まだデータの蓄積が不足しており、その有効性は確認済みであるものの、機器の使用者を増やしてデータの蓄積を進めることが今後の課題となっている。

本科研の調査の中で経験した注目すべき成果を 2 例ほど紹介しておこう。1 つは山梨県甲州市の棲雲寺宝篋印塔の調査である。この宝篋印塔は、形態自体は典型的な畿内系であるが、帯磁率は当該寺院の境内やその周辺にある花崗岩と同じ範囲の数値を示していることから、畿内の石工が出職し、境内周辺の転石を利用して製作したものであることが分かった(境内の磨崖仏の銘

文に名が見える京都の石工が製作したことが判明した)。もう 1 例は北海道函館市の地藏寺花崗岩製石塔残欠群の調査であり、帯磁率が周辺の花崗岩とは大きく異なる数値を示し、日本海西部の花崗岩と同じ数値の範囲に属することから、道南と関係が深い津軽安藤氏の菩提寺羽賀寺が存在する福井県小浜市周辺の花崗岩である可能性が浮上した。形態的にも近畿周辺の様相を示しており、日本最北の花崗岩石造物の事例となった。文理協働調査の相乗効果が有効であることを改めて証明した。

また、本科研の途中から 3D 計測による調査・記録を開始し、関東と九州を中心に 3D 画像の作成を進めた。この方法は大型石造物や装飾の多い石造物の調査にかなり有効であり、手仕事による実測図作成よりも、短時間で客観的な画像を作成できることが分かり、画像集の刊行とともに、石造物の研究者に少なからぬインパクトを与えつつある。

(9) 日本の石造物は 15 世紀に大きな転換期を迎え、簡略化と小型化が始まり、とりわけ 16 世紀になると、畿内を中心に一石五輪塔が爆発的に増加する。地域による時間差があるとはいえ、15 世紀後半以降、九州では小型の自然石板碑、四国の高知では特徴的な小型石仏、関東の小型五輪塔、東北の小型自然石板碑など、地域ごとに地元の石材を使用した矮小で多様な石塔・石仏・石板碑が相次いで現れる。これは 15 世紀以降、仏教が本格的に村や町に浸透し、民衆レベルでも石塔を立てるようになったことを示す。これらの矮小な製造物は、それまでの供養塔とは異なり、墓塔として立てられたものであり、日本列島各地で育まれた石造文化の上に誕生したものであった。私たちは、その概要を把握しつつ、こうした民衆レベルの石造物を、歴史資料としてどう活用するか、様々な試みを開始している。

(10) こうした石造物の変化は中国や韓国でも起こっていた。14 世紀～15 世紀を境として、明代の中国や朝鮮時代の韓国の石造物でも小型化・簡略化が進展しており、その結果として、日本の層塔と似通った石塔も見られるようになる。簡略化・小型化が東アジアで同時進行した現象であったことは間違いないが、その内容と性格に関する検討はこれからの課題である。というのは、15 世紀後半以降の小型石造物が研究対象となったのは、日本でもこの 10 - 15 年くらいの間のことであり、大型石塔が多数残る中国の石造物研究は宋元代に主たる関心が集まり、韓国でも三国時代から高麗までの優品を中心にした研究が中心になっており、中国の明清代や韓国の朝鮮時代の石造物の調査・研究は、これからに期待する状況にある。また、中国・韓国の石造物と儒教との関係や墓制の慣行も問題となる。とりわけ 15 世紀以降の中国や韓国では、石塔の簡略化・小型化と残存例の急減(おそらく建造数の減少)に対応し、その代用物があったのかどうか問題となる。明との関係から儒教を取り入れた朝鮮時代の韓国は、層塔の減少に対応して僧塔(浮屠)が多様な発展を遂げるが、儒者や儒教の信奉者がどのような石塔を立てたのか、あるいは立てなかったのかまだ未解明の状態にある。今後の日本と中国・韓国との石造物の比較・研究を進めるためには、儒教のもとで製作された石造物を調査し、その実態を踏まえた検討が不可欠であり、両国と同じ視点と方法で議論を深める環境づくりが求められている。

(11) 日本の古代石造物が中世石造物に転換したのは 12 世紀であった。その動きは日本社会の再生・再編の時期にあたる 11 世紀から始まり、海商や留学僧らを通じた中国宋との交流の中で、新たな石造文化がもたらされると、朝鮮半島から影響を受けた古代石造文化の土壌の上に宋風の石造文化を受容しつつ、それらの中から日本の嗜好にあった部分を取捨選択し、改変して独自の石造文化を形成していった。それは朝鮮半島や琉球でも同じであり、中国文化を部分的に受容し、それぞれの国に合う独自のものをつくり上げていったのである。

参考文献 佐藤亜聖編『中世石工の考古学』高志書院、2019、市村高男編『中世石造物の成立と展開』高志書院、2020、狭川真一編『中世墓の終焉と石造物』高志書院、2020、『季刊考古学 156 山寺と石造物から見た古代』雄山閣、『石造物研究会会誌 日引』第 16 号、2021、『石造物科研 成果報告・国際シンポジウムレジュメ集』及び追加資料、2022。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計93件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 中世常陸と佐竹氏の発展	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『令和元年度特別展 佐竹氏-800年の歴史と文化-』	6. 最初と最後の頁 p199, p208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 東国武士団の西遷・定着と造塔活動-武蔵国金子氏を中心として-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p 335, p 364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 室町・戦国期の千葉氏と本佐倉城跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『敵を阻む城、にぎわう城下』	6. 最初と最後の頁 p15, p49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤亜聖	4. 巻 -
2. 論文標題 摂津・山城・近江 中世墓の終焉と石造物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 狭川真一編『中世墓の終焉と石造物』	6. 最初と最後の頁 p97, p110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤亜聖	4. 巻 -
2. 論文標題 造形・技術・石工の日中交流	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p7, p22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津 孝・大木公彦	4. 巻 -
2. 論文標題 浙江石材と日本中世-薩摩塔と中国系石塔-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p23, p36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桃崎祐輔	4. 巻 3
2. 論文標題 「筑前国宗像郡津屋崎発見」の双龍文透彫銅板の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福岡大学考古学論集』	6. 最初と最後の頁 p455, p483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻田麻里・桃崎祐輔	4. 巻 -
2. 論文標題 筑前・筑後・豊前・肥前	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中世瓦研究会編『中世瓦の考古学』	6. 最初と最後の頁 p237, p254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島金治	4. 巻 -
2. 論文標題 戦国期肥前の起請文の神文よりみた在地社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p411, p433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石一久	4. 巻 -
2. 論文標題 キリシタン墓碑とその影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p87, p110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山昌孝	4. 巻 -
2. 論文標題 京都系宝篋印塔の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p113, p118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海邊博史	4. 巻 -
2. 論文標題 石造層塔からみた日本と朝鮮半島-形態的特徴からみた技術交流の可能性-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p37. p50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 全 持慧	4. 巻 -
2. 論文標題 韓国の百濟様式石塔と日本の石造層塔についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p51, p85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海邊博史	4. 巻 -
2. 論文標題 河内・和泉・大和・紀伊 中世墓の終焉と石造物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 狭川真一編『中世墓の終焉と石造物』	6. 最初と最後の頁 p111, p138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤利江	4. 巻 -
2. 論文標題 山陰の石造物概観と倉吉古石塔の編年について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p119, p133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今岡 稔	4. 巻 -
2. 論文標題 山陰における凝灰岩製石造物の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p135, p149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西本沙織	4. 巻 -
2. 論文標題 阿波の往生人板碑-國學院大學所蔵三木文雄寄贈板碑の調査から-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p151,p161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田昭一	4. 巻 -
2. 論文標題 九州における初期石塔の成立と展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p163,p191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田昭一	4. 巻 -
2. 論文標題 九州 中世墓から近世墓への諸様相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 狭川真一編『中世墓の終焉と石造物』	6. 最初と最後の頁 p191,p220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田朝由	4. 巻 -
2. 論文標題 香川県の凝灰岩採石場跡と中世石造物文化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p215,p234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田朝由	4. 巻 -
2. 論文標題 山陽・四国 石造物の変容と中世墓の終焉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 狭川真一編 『中世墓の終焉と石造物』	6. 最初と最後の頁 p159, p189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒川信義	4. 巻 -
2. 論文標題 石造物研究と帯磁率・放射線測定	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編 『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p235, p248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤裕偉	4. 巻 35
2. 論文標題 棟札資料論-紀井國牟婁郡入鹿八幡宮と地域社会の変遷-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『三重県史研究』	6. 最初と最後の頁 p1, p50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤裕偉	4. 巻 -
2. 論文標題 中世石造物を受容すること-畿内近隣(伊賀・伊勢・志摩)の宝塔を素材に-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編 『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p249, p264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見秀徳	4. 巻 -
2. 論文標題 石造物の三次元計測-その利点と課題-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p283, p292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永井孝宏	4. 巻 -
2. 論文標題 中世相良氏の造塔行為	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p365, p388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田昭一・西山昌孝・永井孝宏	4. 巻 -
2. 論文標題 熊本県八代市米家層塔の調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p265, p281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本間岳人	4. 巻 -
2. 論文標題 東京の一石五輪塔	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『狭川真一さん遺暦記念論文集 論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 p341, p350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本間岳人	4. 巻 -
2. 論文標題 南関東に残る西日本製石造物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p193, p212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤木 海	4. 巻 -
2. 論文標題 大悲山石仏-その歴史的背景の一端に及び-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p293, p312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小豆畑毅	4. 巻 -
2. 論文標題 清和源氏石川氏の南奥定着と岩法寺五輪塔・曲木板碑群	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p315, p333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北川賢次郎	4. 巻 -
2. 論文標題 肥後国勝福寺古塔碑群と須恵氏関係資料-相良氏に先行する在地領主の検出-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市村高男編『中世石造物の成立と展開』	6. 最初と最後の頁 p389, p410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤宏之	4. 巻 -
2. 論文標題 「位牌」と呼ばれた板碑	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『狭川真一さん遺暦記念論文集 論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 p351, p360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畠山篤雄	4. 巻 -
2. 論文標題 室根町浜横沢の板碑について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『狭川真一さん遺暦記念論文集 論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 p301, p310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 比毛君男	4. 巻 -
2. 論文標題 中世武家墓の伝来について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『狭川真一さん遺暦記念論文集 論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 p311, p320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 中世港町研究と石造物	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関根達人編 『石造物研究に基づく新たな中近世史像の構築』	6. 最初と最後の頁 15, 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 瀬戸内の石造物と石工	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 瀬戸内全誌編集委員会編『瀬戸内全誌中間報告書』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本 涉	4. 巻 213
2. 論文標題 東シナ海の航海を護る濟州島の羅漢	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歴博』	6. 最初と最後の頁 7, 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本 涉	4. 巻 -
2. 論文標題 日宋・日元貿易の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高橋典幸・五味文彦編『中世史講義-院政期から戦国まで』	6. 最初と最後の頁 49, 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津 孝	4. 巻 -
2. 論文標題 薩摩塔	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学編『大学的鹿児島ガイド-こだわりの歩き方』	6. 最初と最後の頁 138, 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 先山 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 亀井堂亀形石槽の石材の岩相記載と産地の推定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『四天王寺亀井堂石造物調査報告書』	6. 最初と最後の頁 17,18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 10
2. 論文標題 草戸千軒町遺跡出土資料にみる鎌倉時代の「会所」と「唐物」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 家具道具室内史	6. 最初と最後の頁 22,37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 50
2. 論文標題 備後南部地域を中心とする広島県域の中世土器に関する覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 芸備	6. 最初と最後の頁 126,132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島金治	4. 巻 48
2. 論文標題 中世後期南九州の兵法書の性格とその受容形態	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 27,42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 桃崎祐輔	4. 巻 27
2. 論文標題 沖ノ島の馬具	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『季刊考古学別冊 世界の中の沖ノ島』	6. 最初と最後の頁 55,60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桃崎祐輔	4. 巻 22
2. 論文標題 北部九州の屯倉設置と首長権の消長	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『島根県古代文化センタ - 研究論集』	6. 最初と最後の頁 195,243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原敏昭	4. 巻 -
2. 論文標題 柳田國男に師事した東北帝大生-大島正隆の民俗学と歴史学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鈴木岩弓・小林 隆編『柳田國男と東北大学』	6. 最初と最後の頁 65,92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 狭川真一	4. 巻 -
2. 論文標題 中世武士の墓と近世大名墓	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大名墓研究編『近世大名墓研究の到達点』	6. 最初と最後の頁 93,100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 狭川真一	4. 巻 -
2. 論文標題 墓と石塔の考古学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『狭川真一さん還暦記念講演会資料集』	6. 最初と最後の頁 1,37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口博之	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の採石加工技術と石材利用 (概報)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐藤亜聖編『中世石工の考古学と』	6. 最初と最後の頁 85,104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海邊博史	4. 巻 -
2. 論文標題 勘合都市遺跡における石造物の転用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 423,432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森山由香里	4. 巻 -
2. 論文標題 石造物からみる中世・近世の画期-河内長野市千代田墓地を題材に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 443,448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田朝由	4. 巻 45
2. 論文標題 白峯寺墓地に見る中世墓地の終焉と近世墓地の形成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 香川史学	6. 最初と最後の頁 29,47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田朝由	4. 巻 -
2. 論文標題 みかどの墓層塔と備讃諸島の中世花崗岩石造物	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 483,491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤偉人	4. 巻 70
2. 論文標題 歴史遺産の継承に歴史学関係者はどう向き合うのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ふびと』	6. 最初と最後の頁 21,32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤偉人	4. 巻 -
2. 論文標題 熊野片川の板碑と北山道	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 553,562
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤亜聖・佐藤利江	4. 巻 -
2. 論文標題 和歌山県かつらぎ町蟻通神社所在石獅子未製品について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 449,456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本間岳人	4. 巻 -
2. 論文標題 東京の一石五輪塔	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 341,350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤宏之	4. 巻 -
2. 論文標題 「位牌」と呼ばれた板碑	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	6. 最初と最後の頁 351,360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤典彦	4. 巻 -
2. 論文標題 四天王寺亀井堂亀形石槽の周辺	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『四天王寺亀井堂石造物調査報告書』	6. 最初と最後の頁 19,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤典彦	4. 巻 第3冊
2. 論文標題 元興寺中世平瓦にみる瓜文叩き文様の出現とその背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『辻尾榮一氏古希記念論叢』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤典彦	4. 巻 -
2. 論文標題 擬宝珠と結界-その根源-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『大阪大谷大学歴史文化学科 調査研究報告書』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 弘	4. 巻 27
2. 論文標題 下野の板碑と中世的信仰世界の転換	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『歴史と文化』	6. 最初と最後の頁 39,52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田昭一	4. 巻 同志社大学考古学シリ-ズ12
2. 論文標題 結衆塔婆の造立とその背景	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『実証の考古学-松藤和人先生退職記念論文集-』	6. 最初と最後の頁 585,598
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田昭一	4. 巻 -
2. 論文標題 九州の採石場遺跡と技術	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐藤亜聖編『中世石工の考古学』	6. 最初と最後の頁 129, 154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今岡 稔	4. 巻 35
2. 論文標題 山陰の石塔二三について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『島根考古学会誌』	6. 最初と最後の頁 95, 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 全
2. 論文標題 科学運動と地域史認識	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史科学協議会編『歴史学が挑んだ課題』大月書店	6. 最初と最後の頁 365 - 387
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤亜聖・李タウン・海邊裕史・山口博之・坂本俊	4. 巻 2017
2. 論文標題 大韓民国全羅北道益山弥勒寺における矢穴技法について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『元興寺文化財研究所研究報告』	6. 最初と最後の頁 139 - 148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 先山 徹	4. 巻 別編1
2. 論文標題 石垣石材の分類と帯磁率に関する資料	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『松江市史別編 松江城』	6. 最初と最後の頁 574 - 579
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 館鼻 誠	4. 巻 全
2. 論文標題 瀬戸内海西部における石塔の諸相 - 宝篋印塔・五輪塔を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中世葬送墓制研究会編『四国地域の中世墓終焉期を探る』	6. 最初と最後の頁 65 - 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津 孝	4. 巻 64.65
2. 論文標題 鹿児島大学付属図書館玉里文庫に見る薩摩藩の海外情報収集	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿大史学	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 23
2. 論文標題 港湾集落出土遺跡からみた消費財としての貿易陶磁器	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本貿易陶磁研究	6. 最初と最後の頁 74 - 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島金治	4. 巻 210
2. 論文標題 「名語記」の著者経尊とその周辺 - 鎌倉中期の公武交流と西国の交通・流通 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 203 - 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原敏昭	4. 巻 258
2. 論文標題 アイヌ文化成立期の北海道と平泉・鎌倉 - 北海道厚真町の遺跡が投げかけるもの -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『歴史と地理 日本史の研究』	6. 最初と最後の頁 51 - 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 狭川真一	4. 巻 2017
2. 論文標題 慧日寺伝徳一廟五重石塔の再復元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『元興寺文化財研究所研究報告』	6. 最初と最後の頁 73 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 中世東アジアの中の西海地域 - 倭寇の世界とキリシタン・南蛮貿易 -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 市村他編『石が語る西海地域 - 倭寇とキリシタン世界を読み直す』アルファベーターブックス	6. 最初と最後の頁 pp.157-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 市村高男	4. 巻 -
2. 論文標題 中世港町の成立と展開	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 市村他編『中世港町論の射程 港町の原像 下』岩田書院	6. 最初と最後の頁 pp.7-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市村高男	4. 巻 19
2. 論文標題 古代中世における日本海域の海運と港町	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『中世都市研究』	6. 最初と最後の頁 pp.5-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 七海雅人	4. 巻 -
2. 論文標題 板碑造立の展開と武士団 - 陸奥国白河・石川庄の事例から -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中島圭一編『十四世紀の歴史学 新たな時代への起点』高志書院	6. 最初と最後の頁 pp.109-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 -
2. 論文標題 港湾集落「備後草津」の特質 - 草戸千軒町遺跡の調査成果から -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 市村他編『中世港町論の射程 港町の原像 下』岩田書院	6. 最初と最後の頁 pp.147-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 300
2. 論文標題 「草戸千軒」をめぐる人々 - 常福寺の住持・沙弥頼秀とは -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『芸備地方史研究』	6. 最初と最後の頁 pp.85-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 先山 徹	4. 巻 号外66
2. 論文標題 兵庫県南部六甲山地の花崗岩と災害文化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『月刊地球』	6. 最初と最後の頁 pp.30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 先山 徹	4. 巻 269
2. 論文標題 花崗岩類石材の岩相と産地同定	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『大阪城7 - 大阪城文化センター調査報告書』	6. 最初と最後の頁 pp.202-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 先山 徹	4. 巻 76
2. 論文標題 石棺の石材と産地の岩石	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『玉岡古墳2 - 加西市埋蔵文化財調査報告書』	6. 最初と最後の頁 pp.38-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本 涉	4. 巻 9
2. 論文標題 末日・元日間海上航路における高麗の島嶼	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『海洋文化財』	6. 最初と最後の頁 pp.72-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本 涉	4. 巻 -
2. 論文標題 悪石島とその周辺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 稲賀繁美編『海賊史観からみた世界史の再構築 - 交易と情報流通の現在を問い直す - 』	6. 最初と最後の頁 pp.395-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島金治	4. 巻 -
2. 論文標題 戦国期における兵法書の伝授と密教僧・修験者	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 福島金治編『生活と文化の歴史学 9 学芸と文芸』竹林舎	6. 最初と最後の頁 pp.432-456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木公彦	4. 巻 14
2. 論文標題 鹿児島県域の地形・地質学的背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究報告』	6. 最初と最後の頁 pp.13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千々和到	4. 巻 8
2. 論文標題 飯能市郷土館収蔵の「おふだ」に書かれた神代文字	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『飯能市郷土館研究紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川博史	4. 巻 36
2. 論文標題 15・16世紀山陰地域の政治と流通	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『貿易陶磁器研究』	6. 最初と最後の頁 pp.15-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原敏昭	4. 巻 3
2. 論文標題 中世初期日本国周縁部における交流の諸相	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古代東ユーラシア研究センター年報』 専修大学古代東ユーラシア研究センター	6. 最初と最後の頁 pp.151-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口博之	4. 巻 34
2. 論文標題 ラオス人民民主共和国ワットプー (VATPHOU) 遺跡踏査記	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『山形県立博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 pp.59-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口博之	4. 巻 -
2. 論文標題 荷葉蓋(奇叶蓋)小考	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『亀井明德氏追悼貿易陶磁研究等論文集』亀井明德さん追悼文集刊行会	6. 最初と最後の頁 pp.285-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 河内鑄物師全国展開の虚実
3. 学会等名 大阪市大・市博・文化財協会包括連携協定企画シンポジウム河内鑄物師の実像に迫る (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 南北朝・室町期の佐竹氏
3. 学会等名 茨城県立歴史館企画展記念講演 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 室町・戦国期の千葉氏と本佐倉城跡-地域からの視点で全体を見る-
3. 学会等名 本佐倉城跡国史跡指定20周年記念事業講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桃崎祐輔
2. 発表標題 中国沈船資料に積載された「鉄条材」と日本中世の棒状鉄素材の比較研究
3. 学会等名 北京本好きの会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桃崎祐輔
2. 発表標題 魏晋南北朝時期複合的騎馬文化和佛像变化的考古研究
3. 学会等名 中国社会科学院考古研究所国際交流學術講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口博之
2. 発表標題 宋金墓室壁画の荷葉蓮台牌
3. 学会等名 中国紀都城和草原絲路与契丹遼文化国際學術検討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原田昭一
2. 発表標題 熊本県地震復旧・復興に伴う文化財調査
3. 学会等名 大分県立埋蔵文化財センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎本 渉
2. 発表標題 浙江省寧海県の蛇蟠洋と海上交通
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高津 孝
2. 発表標題 浙江石材と中世日本
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田昭一
2. 発表標題 「藤原助継」銘石造物について-九州における大陸風意匠をもつ石造物の調査-
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永井孝宏
2. 発表標題 浄心寺十三重塔の歴史的背景
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 先山徹
2. 発表標題 帯磁率による石材判定
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒川信義
2. 発表標題 帯磁率・放射線測定から見た石材分布
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田朝由
2. 発表標題 讃岐の石切場跡について
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木康之
2. 発表標題 滑石製石鍋研究の現状と課題
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 佐藤亜聖
2. 発表標題 加工技術からみた日中石材の比較検討
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 海邊博史
2. 発表標題 韓国の層塔と日本の層塔
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山昌孝
2. 発表標題 畿内に残る古代・中世初期石造物の検討
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 陸奥国における板碑造立の展開と武士団（紙上報告）
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本間 岳人
2. 発表標題 関東における石塔の出現と初期展開
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤 裕偉
2. 発表標題 中世石造物を受容するということ-畿内の周縁と外部（伊賀・伊勢）の宝塔を素材に-
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 館鼻 誠
2. 発表標題 瀬戸内西部の石造物-広島県下の宝篋印塔と五輪塔を中心に-（紙上報告）
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市村 高男
2. 発表標題 ステータスとしての輝緑岩石造物-琉球の石造物石材-
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福島金治
2. 発表標題 戦国期肥前の起請文の神文からみた在地社会
3. 学会等名 石造物科研中締めシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 中近世城館跡の立地と水陸交通路
3. 学会等名 北部九州中近世城郭研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 先山 徹
2. 発表標題 西南日本の白亜紀火成活動に関連した石材の利用とその地質学的背景
3. 学会等名 文化地質学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高津 孝
2. 発表標題 演劇故事：琉球王國時代的組資料
3. 学会等名 燕行使進紫禁城學術研討會（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 河内鑄物師の発展と鎌倉大仏造営-東国への進出と定着-
3. 学会等名 堺市立みはら歴史博物館講演（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 宇都宮氏の歴史と美術-石造物の紹介を中心に-
3. 学会等名 栃木県立博物館講演（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市村高男
2. 発表標題 文献資料から見た前近代採石場の管理と石工集団
3. 学会等名 中世採石・加工技術研究会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤亜聖
2. 発表標題 日中韓における石造物文化と採石加工技術の交流
3. 学会等名 中世採石・加工技術研究会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤亜聖
2. 発表標題 播磨の一石五輪塔
3. 学会等名 中世葬送墓制研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤亜聖
2. 発表標題 大田荘と石造物
3. 学会等名 郷土文化支援事業講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 桃崎祐輔
2. 発表標題 忍性東国布教の朋輩と叡尊の示寂
3. 学会等名 神奈川県立金沢文庫特別展記念連続講座
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山口博之
2. 発表標題 中国採石遺跡における採石加工技術と石材利用
3. 学会等名 中世採石・加工技術研究会（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 市村高男・鈴木敦子・堀本一繁（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 156
3. 書名 勝尾城筑紫氏遺跡と九州の史跡整備	

1. 著者名 市村高男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 430
3. 書名 中世石造物の成立と展開	

1. 著者名 佐藤亜聖（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 270
3. 書名 『中世石工の考古学』	

1. 著者名 狭川真一（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 220
3. 書名 『中世墓の終焉と石造物』	

1. 著者名 佐藤亜聖(編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 270
3. 書名 中世石工の考古学	

1. 著者名 高津 孝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 111
3. 書名 江戸の博物学	

1. 著者名 千々和到、浅野晴樹(編著)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 384
3. 書名 板碑の考古学	

1. 著者名 原田昭一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 250
3. 書名 九州板碑の考古学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

石造物化研 石造物研究による中世日本文化・技術形成過程の再検討  
<https://e.jimdo.com/app/s6c1456a3f2725444/pfab961380bade9eb/?cmsEdit=1>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	舘鼻 誠  (Tatehana Makoto)  (00384678)	日本体育大学・スポーツ文化学部・准教授   (32672)	
研究分担者	七海 雅人  (Nanami Masato)  (00405888)	東北学院大学・文学部・教授   (31302)	
研究分担者	鈴木 康之  (Suzuki Yasuyuki)  (10733272)	県立広島大学・人間文化学部・教授   (25406)	
研究分担者	先山 徹  (Sakiyama Tooru)  (20244692)	兵庫県立大学・地域資源マネジメント研究科・客員教授   (24506)	
研究分担者	佐藤 亜聖  (Satou Asei)  (40321947)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授   (24201)	



## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	桃崎 祐輔 (Momosaki Yuusuke) (60323218)	福岡大学・人文学部・教授  (37111)	
研究分担者	榎本 渉 (Enomoto Wataru) (60361630)	国際日本文化研究センター・研究部・准教授  (64302)	
研究分担者	高津 孝 (Takatu Takasi) (70206770)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授  (17701)	
研究分担者	福島 金治 (Fukushima Kaneharu) (70319177)	愛知学院大学・文学部・教授  (33902)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤澤 彦典 (Fujisawa Fumihiko)		
研究協力者	大石 一久 (Ohoishi Kazuhisa)		
研究協力者	黒川 信義 (Kurokawa Nobuyosi)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	伊藤 裕偉  (Itou Hirohito)		
研究協力者	伊藤 宏之  (Itou Hiroyuki)		
研究協力者	内田 大輔  (Utcida Daisuke)		
研究協力者	海邊 博史  (Kaibe Hiroshi)		
研究協力者	鈴木 弘太  (Suzuki Kuta)		
研究協力者	飛田 英世  (Tobita Hideyo)		
研究協力者	永井 孝宏  (Nagai Takahiro)		
研究協力者	西本 沙織  (Nishimoto Saori)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西山 昌孝  (Nishiyama Masataka)		
研究協力者	野口 達郎  (Noguchi Taturou)		
研究協力者	藤木 海  (Fujiki Kai)		
研究協力者	畠山 篤雄  (Hatakeyama Tokuo)		
研究協力者	原田 昭一  (Harada Soichi)		
研究協力者	本間 岳人  (Honma Takehito)		
研究協力者	森山 由香里  (Moriyama Yukari)		
研究協力者	石井 伸夫  (Ishii Nobuo)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	今岡 稔  (Imaoka Minoru)		
研究協力者	佐藤 利江  (Satou Toshie)		
研究協力者	目良 裕昭  (Mera Hiroaki)		
研究協力者	中山 雅弘  (Nakayama Masahiro)		
研究協力者	比毛 君男  (Hike Kimio)		
連携研究者	大木 公彦  (Ohoki Kimihiko)  (90041235)	鹿児島大学・学内共同利用施設等・名誉教授   (17701)	
連携研究者	狭川 真一  (Sagawa Sinnichi)  (30321946)	公益財団法人元興寺文化財研究所・その他の部局・研究員   (84601)	2020年3月退職。同年4月から大阪大谷大学文学部教授。
連携研究者	千々和 到  (Tijiwa Itaru)  (10013286)	國學院大学・文学部・特任教授   (32614)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	長谷川 博史 (Hasegawa Hiroshi)  (20263642)	島根大学・教育学部・教授  (15201)	
連携研究者	柳原 敏昭 (Yanagihara Toshiaki)  (30230270)	東北大学・文学研究科・教授  (11301)	
連携研究者	山口 博之 (Yamaguchi Hiroyuki)  (90470278)	公益財団法人元興寺文化財研究所・その他の部局・研究員  (84601)	2020年3月退職。山形・宮城県の大学等で非常勤講師。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関